

【第11回荒川ウォーキング長瀬→葛西臨海公園】

2023年3月19日(日)

■往路

乗車・乗換駅	発時刻	着時刻	
草加(区急館林行)	7:32-7:50		¥481
春日部	7:54-8:16		
大宮	8:24-8:49		¥418
北鴻巣	1時間17分		¥899

■コースタイム(見学時間を含む)

チェックポイント	時刻	所要時間	
北鴻巣駅スタート	9:00	-	1:2
光酒造蒸留所	9:28	0:28	0:24
田氷川神社	10:07	0:38	0:32
休憩・昼食	10:57	0:50	
馬室バス停6km	11:50	0:52	0:44
馬室バス乗車	12:22	-	
武蔵丘短大前下車	12:38	0:16	
吉見百穴見学	13:38	1:00	
武蔵丘短大前乗車	14:05	-	
御成河岸下車	14:18	0:13	
川幅日本一	14:42	0:24	0:20
北本駅	16:07	1:25	1:11
所要時間合計	-	6:08	3:11

馬室バス:11:22・52/12:22・56/13:19・42
 武蔵丘短大:13:5・39/14:5・23・47/15:5・35
 馬室陸橋:15:17→北本駅15:45

■復路

乗車・乗換駅	発時刻	着時刻	
北本(高崎線)	16:11-16:26		¥330
大宮(野田線)	16:43-16:58		¥481
春日部(伊勢崎線)	17:08-17:28		
草加駅	1時間17分		¥811

交通費:1,710円+バス代
 歩行距離:約13.8km

参加者:17名

小林・原・高橋・小坂・大畑・中島・森・加藤栄子
 高原・池澤・青木・小倉・北爪・前田・森岡・
 笠原・小野寺



光酒造蒸株式会社鴻巣留所

荒川の河川敷に面した、戦国時代に築城された小谷城の跡地に洋館風のスコットランドを思わせる造りの建物と灰色の2棟の倉庫が並ぶ。

運営は光酒造株式会社(福岡県の老舗焼酎蔵とは別法人)。

イギリスに本社を置く精密化学メーカーのCEOを務めるエリック・チョア氏が開設した、海外資本の初のクラフトウイスキー蒸留所。

スコットランドの蒸留所で見習いをした経験があることから、ウイスキー作りに関する知識は豊富。

2020年2月から稼働を始め、現在の仕込みはワンバッチ麦芽1トン。

麦芽はスコットランドをはじめ海外のモルトを使用し、酵母は数種類のイーストを海外から取り寄せている。

発酵槽はステンレス製が計6基。

発酵槽と同じくフォーサイス社製のスチル2基は、初留がランタンヘッド型、再留がバルジ型で、それぞれの容量は5,500リットル、3,600リットル。

樽詰の度数も63.5%とスコッチ風で、ファーストフィルのバーボン樽に詰めてダンネージ式の熟成庫で寝かせている。

シングルモルトの初リリースは2025年以降を予定。熟成にじっくりと時間をかけ、ボトリングを急ぐつもりはないという。

今後はビジターセンターを敷地内に開設する予定。

吉見百穴

吉見百穴は古墳時代の末期(6世紀末~7世紀末)に造られた横穴墓群で、大正12年に国の史跡に指定された。

横穴墓は丘陵や台地の斜面を掘削して墓としたものであるが、死者が埋葬された主体部の構造は古墳時代後期の横穴式石室とほとんど同じである。百穴が分布する一帯は凝灰質砂岩と呼ばれる比較的掘削に適した岩盤が広がっており、当時の人々は掘削するのに適した場所を探して横穴墓を造ったと考えられる。

吉見百穴は明治20年に発掘調査が実施されているが、わずかな写真と出土品を残すのみで詳細な

情報はほとんど残っていない。

現在確認できる横穴の数は219基である。

各横穴は玄室・羨道の2部分からなり、その一部には天然記念物のヒカリゴケも自生している。

地下軍需工場跡

太平洋戦争中、この岩山の地下に中島飛行機の地下軍需工場を建設するため、岩山の最下部に大きなトンネル(直径3メートルほど)が基盤の目状に掘られ、その出入口として吉見百穴には3か所の坑口が掘り出された。

また、吉見百穴のすぐそばを市野川が蛇行して流れていたが、軍需工場の前面に用地を確保するため、流路を西側へ移動する河川改修も合わせて行われた。

この際、元から存在していた横穴が十数個崩されて消滅している。これらの軍用トンネルの内壁は、ほぼ素掘りのままとまっている。

夏期は涼風が吹き出すことがある。

軍用トンネルの奥は危険なため、途中から鉄柵で塞がれている。

空襲を避けて戦闘機のエンジン部品を生産するための工場でしたが、本格的な生産への移行前に終戦を迎えた。

川幅日本一

鴻巣市と吉見町の間を流れる荒川の川幅の最大は、2537m。実は、実際の川幅は荒川の中流部ということもあって、わずかに30m。

下流の川口市などよりもうんと水量も少なく、川幅も狭くなっている。

実際に「川幅日本一」というポールの立つ御成橋のたもとに立っても、ぜんぜん荒川の水面、つまりは川の流れは見えない。

国土交通省荒川上流河川事務所が日本一広い川幅と認定したのはそこから630m上流に行ったところ(河口から62kmの地点)。

河川敷が農地になっているような場所でも、「川の一部」と見なされ、堤防間が2537mあることから「川幅日本一」と認定された。

埼玉県は、利根川や荒川を抱え、県土に占める河川面積が3.9%でこちらも日本一。